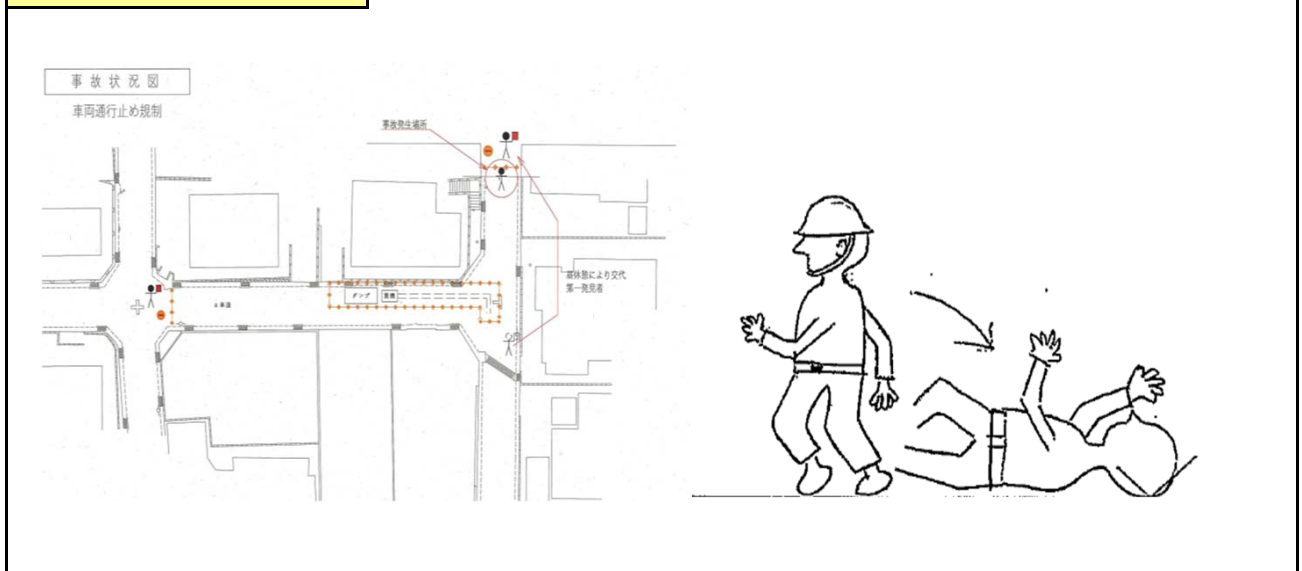


# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成30年8月6日(月曜日)13時30分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	熱中症	性別	男性	年齢	57	業種区分	土木
被災程度	熱中症のような症状、後頭部を打ったことによる脳挫傷			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	1ヵ月
工事概要	配水管布設工事						
事故概要	交通誘導警備員が体調不良を訴え熱中症の症状が生じたことから、日陰に移動し水分の補給を行った後、車に移動しようと数歩歩いた際に、後方に倒れ後頭部を受傷したものの。						
事故原因	朝のKY活動時に作業従事者と交通誘導警備員に体調状態を顔色で確認し、作業現場に水分補給水と飴を常備し、こまめに水分の補給を行うよう周知して熱中症の対策を行い作業を進めていたが、熱中症の初期症状時の対応が不足し、被災者を単独で移動させたため。						
改善策	安全訓練を実施し、こまめな水分及び塩分補給を行い、適度な休憩をとるように改めた。また、作業前のKY活動時に、作業従事者と交通誘導警備員の健康状態の確認を声掛けや自己申告をさせる等の体調管理を行うとともに、作業員全員が熱中症のリスクを再認識するよう改めた。						

## 事故状況図



## 改善状況図



再発防止に向けた安全訓練を実施する。

# 公共工事等事故情報

事故分類	もらい事故	発生日時	平成30年 8月 9日(木曜日) 10時15分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	自動車等	性別	男性	年齢	53歳	業種区分	土木
被災程度	右足関節内果骨折・前脛腓靭帯損傷			事故レベル	I	休業見込日数	3日
工事概要	水道管の漏水防止調査						
事故概要	既設構造物(消火栓)の確認作業(現地検査準備)のため、交差点付近で片側交互の規制を行い、規制帯内で交通誘導員の到着を待っていたところ、交差点を左折し走行してきた車両の運転者の前方不注意により人身事故が発生したもの。						
事故原因	現道を使用する場合の道路使用許可条件の保安施設等の設置や、2名体制での作業手順を怠ったため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社内教育により、下記の事項について事故再発防止教育を行った。</li> <li>・社内様式の「作業・安全チェックリスト」に作業前確認項目として安全管理(保安施設、使用許可条件遵守事項等)を追加した。</li> <li>・事前に現場状況を詳細に確認し、現場状況や作業内容に応じた現場体制を整え、作業従事者が確実に安全確認するよう周知徹底を図り再発防止に努める。</li> <li>・今回の事故を含めた現場状況をモデルに安全管理について議論し、意識向上を図った。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図



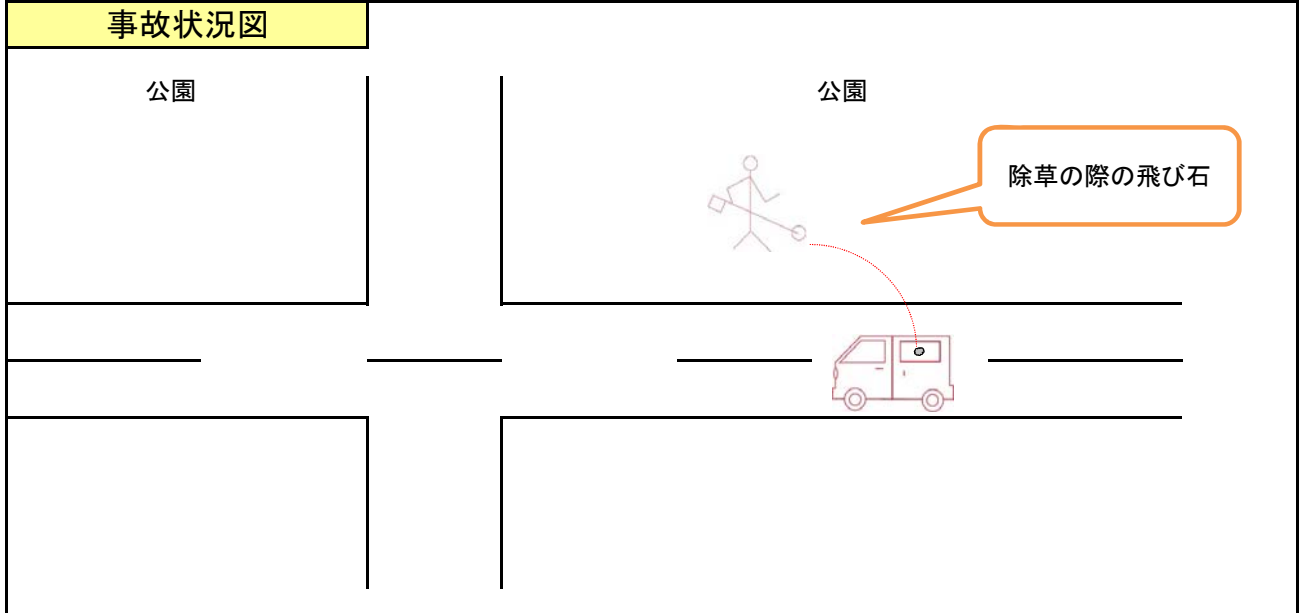
社内教育



事故再発防止教育

## 公共工事等事故情報

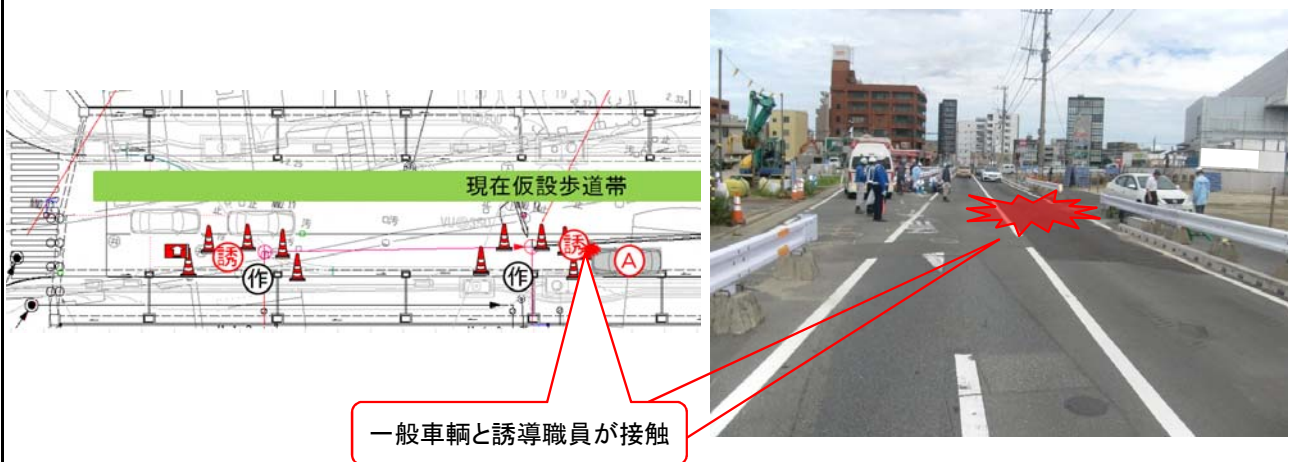
事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年8月3日(金曜日)11時10分頃			工事関係者区分	元請け
事故区分	車両・自転車等損傷	性別	男性	年齢		業種区分	土木
被災程度	車両の窓ガラス損傷			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	公園等除草業務委託						
事故概要	肩掛け式刈払機を使用して除草作業を行った際に、外周道路を走行していた車両に飛石が当たり、窓ガラスを損傷させた。						
事故原因	除草作業が終了し手直し程度の仕上げ作業が必要で短時間で作業が済むと作業員が独断で飛散防止ネットを設置せずに作業を行ったため。						
改善策	除草作業の終了や手直しの指示については、現場を管理をする責任者が指示・命令を行うように徹底する。 作業従事者には飛散防止対策の必要性について、作業開始前に教育を継続して行き安全意識の向上に努める。 仕上げ時においてもパネルを設置する。						



# 公共工事等事故情報

事故分類	もらい事故	発生日時	平成30年 8月16日(木曜日) 10時45分			工事関係者区分	元請け
事故区分	自動車等	性別	男性	年齢	48才	業種区分	土木
被災程度	腰・肩・顔の打撲			事故レベル	I	休業見込日数	2日
工事概要	新設管の布設及び既設管の撤去工事						
事故概要	竣工検査準備の点検・清掃を行うため、片側規制で保安施設を設置し職員2名の交通誘導で作業を行っていたところ、走行してきた車両に停止の合図を送ったが停止せずに誘導職員と車両の接触事故が発生した。						
事故原因	一般車両運転者の前方不注意による人身事故。						
改善策	<ol style="list-style-type: none"> <li>1)道路使用許可証を取得し工事・調査等を実施する場合は、道路使用許可証・保安施設設置状況・交通誘導整理員の配置等の点検者を選任配置する。</li> <li>2)新規入場者教育の際に不停止車両対策を実施する。</li> <li>3)道路上及び近接作業を行う際は、作業員・関係者全員に昼夜問わず反射ベストの着用を義務付ける。</li> <li>4)社内安全パトロールの強化を実施する。</li> </ol>						

## 事故状況図



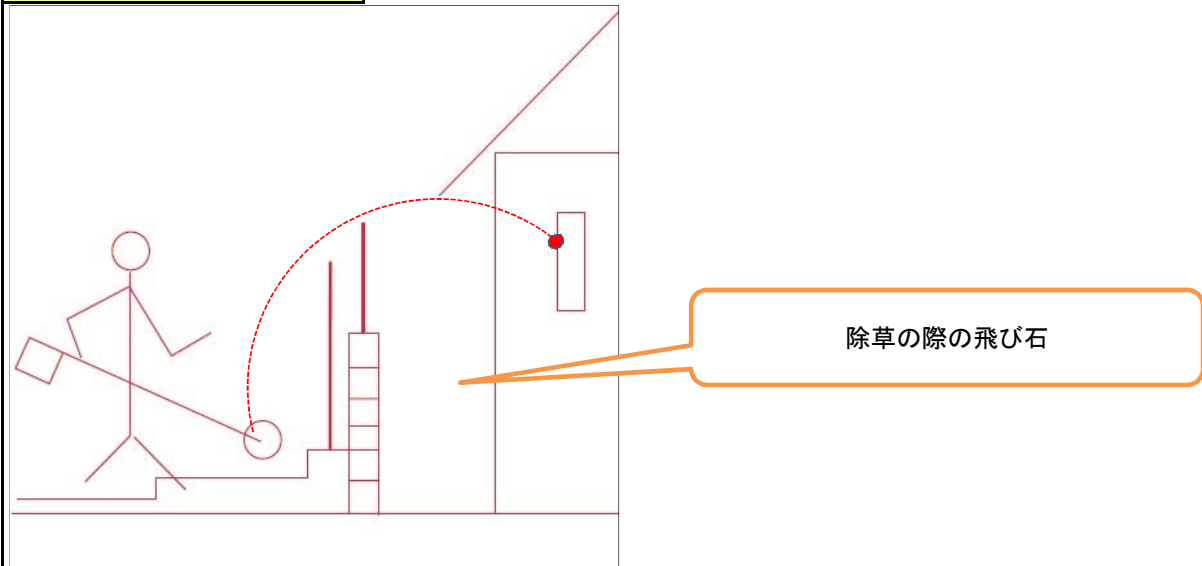
## 改善状況図



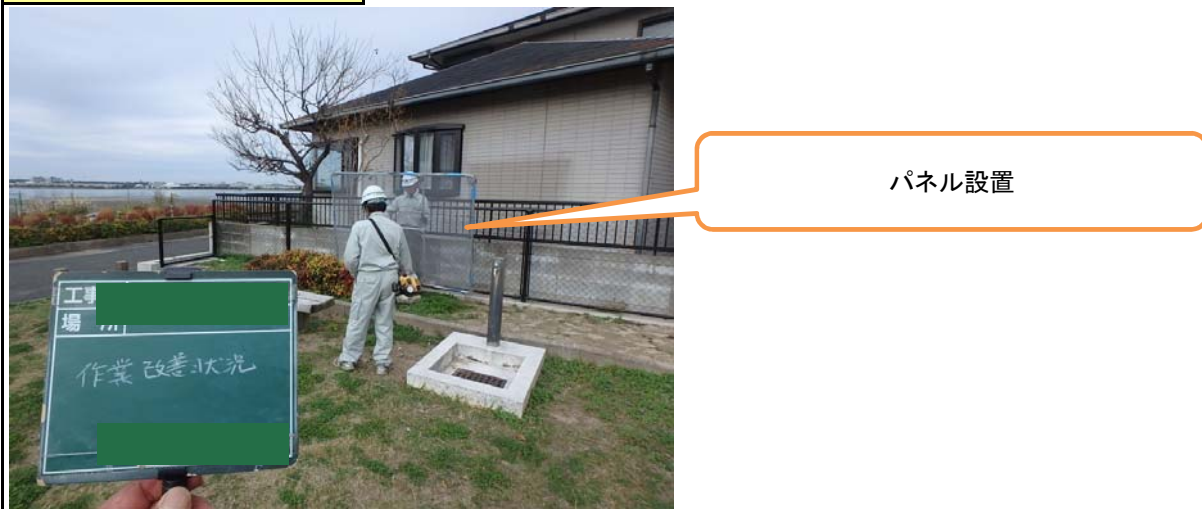
# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年8月18日(土曜日)15時00分頃			工事関係者区分	一次下請
事故区分	その他の物損	性別		年齢		業種区分	土木
被災程度	窓ガラス損傷			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	公園管理等業務委託						
事故概要	肩掛け式刈払機を使用した除草の際、公園に隣接した家屋の窓ガラスに飛石し損傷させたもの。						
事故原因	公園に隣接した家屋にはブロック塀及び外柵が設置してあり、作業員が防護パネル等の処置は不要と判断し作業を進めたため。						
改善策	現場条件を把握し、人力や機械除草に関わらずパネルを設置する。						

## 事故状況図



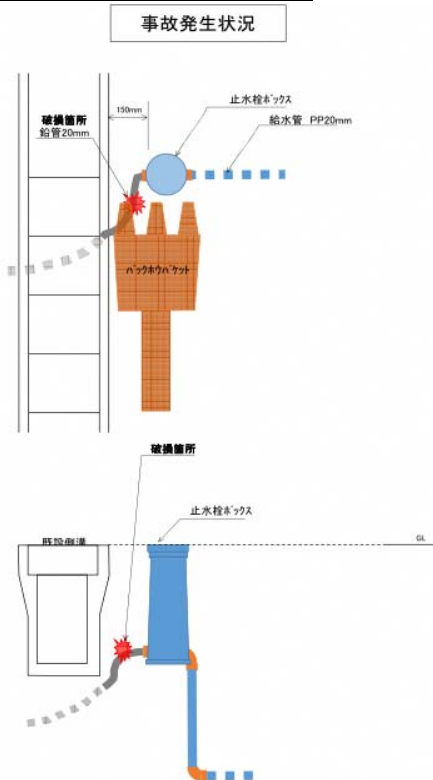
## 改善状況図



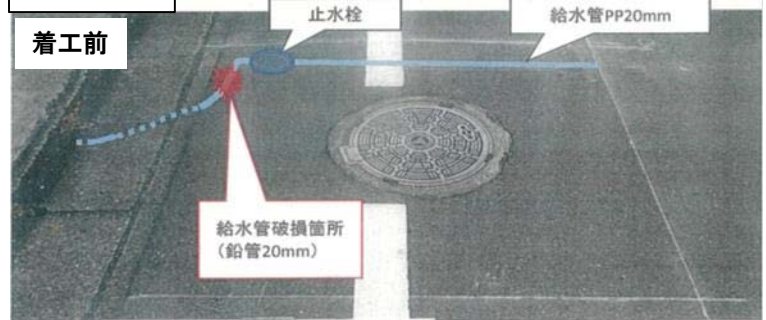
# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 8月23日(木曜日) 13時00分		工事関係者区分	一次下請	
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	水道給水管を損傷		事故レベル	I	休業見込日数	0	
工事概要	下水道汚水柵蓋更新工事						
事故概要	汚水柵更新に伴い、柵の周囲をバックホウで掘削した際に、給水管に接触し破損させた。						
事故原因	給水管等埋設位置の確認にあたり、埋設物管理者との協議および関係資料との照合確認を怠り、目視できる止水栓ボックスにより想定し機械掘削を行った。						
改善策	<p>○社内研修を実施し、以下の項目の順守を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路掘削を伴う作業がある場合は、埋設物管理者と必ず協議を行い、埋設物の有無、位置、管種等を確認する。</li> <li>・埋設物位置の現地確認にあたっては、埋設物管理者が保管する資料と現地にて照合し、道路上の各種弁や、可能な限り民地側のメーター位置等を確認し、施工箇所にマーキングを行う。</li> <li>・埋設物周囲の掘削作業においては、機械掘削と人力掘削の作業区分(平面、深さ)の基準を設ける。</li> </ul> <p>○埋設物確認作業手順書を作成。</p>						

## 事故状況図



## 現地写真



## 機械掘削後



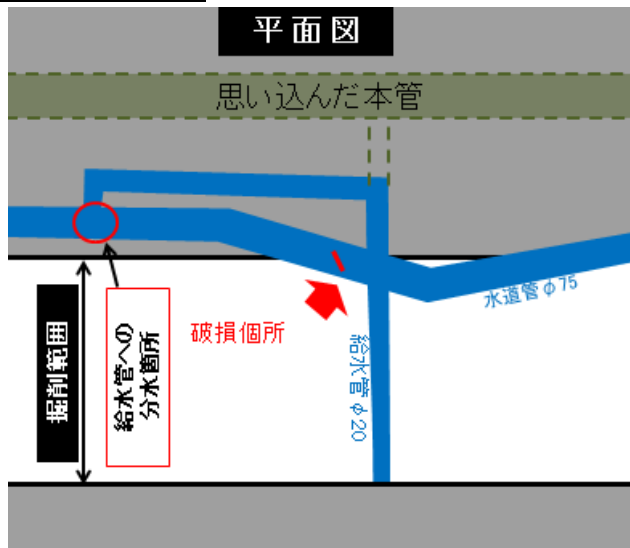
## 改善状況図



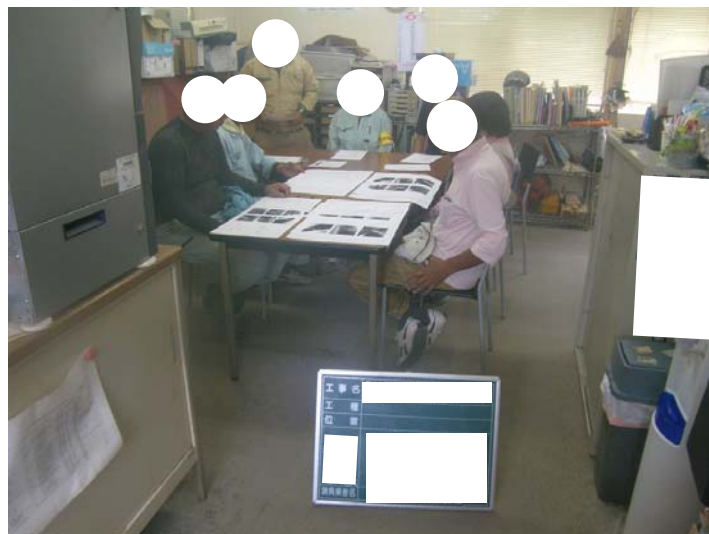
# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成 30 年 8 月 21 日( 火曜日) 14時 15分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	水道管(φ75)を破損			事故レベル	Ⅱ	休業見込日数	—
工事概要	下水道築造工事						
事故概要	下水道を布設するための土留工(軽量鋼建込工法)の掘削作業時に、水道管φ75をエンジンカッターで切断し破損させたもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>掘削断面に露出した不明管は想定していた水道本管の法線と異なっていたために、残置管と思い込み撤去作業を行ったこと。</li> <li>埋設管理者に確認等を行わず残置管(使用廃止)と安易に現場判断を行った。</li> </ul>						
改善策	<p>下記改善研修を行い、以下のことを行うことにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埋設管理図及び試掘等により事前確認を行い、埋設物の有無及び形状・法線等を作業従事者全員に周知徹底し作業を行うこととした。</li> <li>事前確認で認識していない不明管を発見した場合は作業を止め、各管理者等に報告し、指示を仰ぎ対応することとした。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図

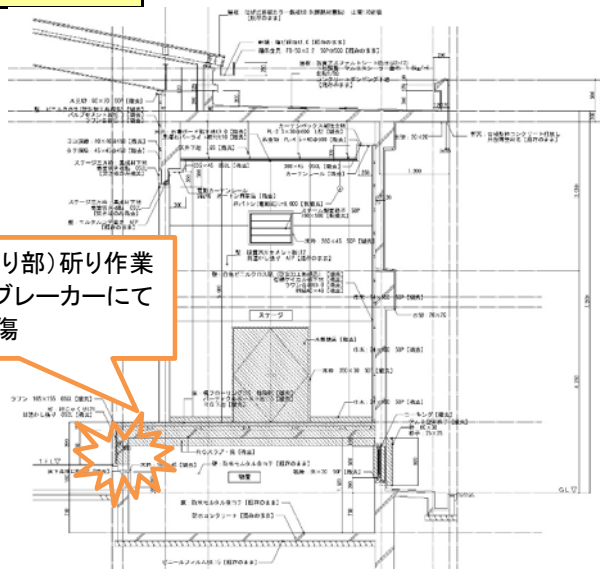


# 公共工事等事故情報

事故分類	労働災害	発生日時	平成 30年 8月 29日(水曜日) 14時 20分			工事関係者区分	二次下請
事故区分	工具等取扱	性別	男性	年齢	20	業種区分	建築
被災程度	軽度の骨折			事故レベル	(技術監理課で記入)	休業見込日数	0
工事概要	講堂兼体育館の内部改修工事						
事故概要	講堂兼体育館のステージ床をコンクリートブレーカーで研り作業中に、誤って左足に突いてしまい親指を受傷したもの。						
事故原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>壁の取り壊し作業において、作業床面からの作業姿勢では開口部(ピット)に転落する恐れがあったにも関わらず、開口部に作業床を設置する等の対策を行わなかったため。</li> <li>熱中症を防止するための作業管理が不十分で、ブレーカー作業への慣れも相まって注意力が散漫になったため。</li> </ul>						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>開口部の立入禁止処置の徹底</li> <li>開口部に立馬等を設け、安全な姿勢での作業実施</li> <li>手工具での危険予知について作業従事者へ周知徹底</li> <li>現場全体で事故防止に繋げていけるよう、作業員間でも声の掛け合いを実施</li> <li>職長会議(昼礼)時に各職長より作業員の体調について報告を実施</li> </ul>						

## 事故状況図

ステージ床(立上り部)研り作業中にコンクリートブレーカーにて左足の親指を負傷



事故発生現場



事故発生状況再現

## 改善状況図



作業従事者への手工具の危険予知状況



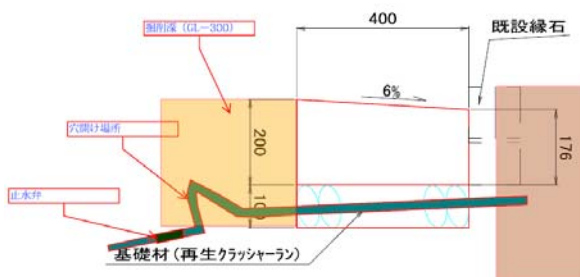
昼礼時の体調報告



# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年 8月30日(火曜日) 10時55分			工事関係者区分	元請け
事故区分	埋設物等損傷	性別	—	年齢	—	業種区分	土木
被災程度	給水管破損			事故レベル	I	休業見込日数	—
工事概要	道路改良工事						
事故概要	既設L型側溝の取壊し作業及び掘削作業を行っていたところ、新設する位置に支障となる給水管が露出し通水の有無の確認を行うために、ドリルで穴を空け破損させた案件である。						
事故原因	給水管が異常な形状で敷設されていたため、作業員が不要管と勘違いし現場代理人に連絡を行わず独自の判断で通水の有無を確認したため。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々のKY活動時に、地下埋設物に十分注意するよう施工を行うよう注意喚起を行った。</li> <li>工事に支障となる地下埋設物や不明管を発見した場合の移設手順について現場代理人から作業員全員に周知徹底を図った。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図

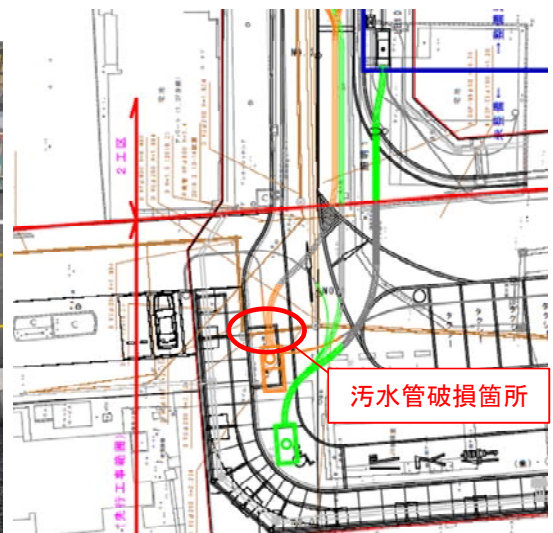
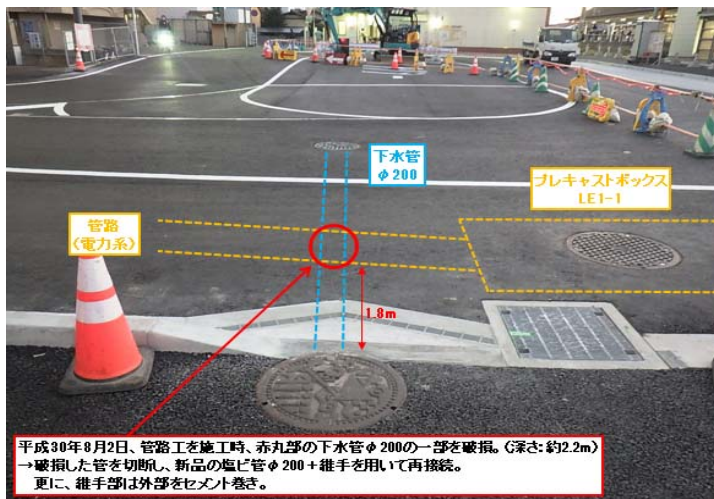


KY活動にて対応手順の確認を行う。

# 公共工事等事故情報

事故分類	物損公衆災害	発生日時	平成30年8月2日(木曜日) 11時00分			工事関係者区分	一次下請
事故区分	埋設物等損傷	性別		年齢		業種区分	土木
被災程度	汚水管破損			事故レベル	I	休業見込日数	
工事概要	電線共同溝建設工事						
事故概要	電線共同溝の管路を設置するための掘削中に、土のすきとりのためバックホウを使用した際に汚水管(VUφ200)を破損させたもの。						
事故原因	事前の埋設物調査により、付近に汚水管が存在することを認識していたにもかかわらず、現地でのマーキングが不十分であり、重機への合図者が埋設物の位置を把握できない状況で機械による掘削を行ったこと。						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下埋設物近接箇所の作業において、現場状況に応じたマーキングや注意喚起等の保安措置を施した。</li> <li>地下埋設物の状況を作業従事者や重機のオペレーターに現地にて周知・徹底を行った。</li> </ul>						

## 事故状況図



## 改善状況図

